

関係団体の意見と対応

【平成 2 1 年度連携排砂及び連携通砂の実施結果について】

関 係 団 体 名	関 係 団 体 の 意 見	対 応 状 況
海面漁業関係団体	① 連携排砂でダムから流出した土砂量や海に流入した土砂量及び拡散状況の把握に今後も努めて欲しい。また、水深の深い地点の調査(底質も含む)についても継続して実施して欲しい。	① 排砂及び洪水時の正確な土砂量の把握は、現在の測定技術では困難な状況にあるが、土砂動態の把握のため、排砂シミュレーションの精度向上に努めるとともに、平成16年以降、新たに排砂期間前の5月にダム貯水池測量を実施しており、また平成18年度からは、新たに連携排砂実施期間終了後の9月に貯水池測量を実施している。 この他、出・洪水時、排砂・通砂時の流砂量観測や、黒部川河口より海へと流出した土砂量及び土砂の質、海での拡散状況を把握するため、排砂・通砂実施時のヘリによる空撮、海域での採水調査等を実施し、土砂動態の把握精度の向上に努めているところである。 また、底質調査については、来年度も継続して調査を行う予定にしている。

【平成21年度連携排砂及び連携通砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>② 今後の宇奈月ダムの堆砂形状を踏まえ、漁場環境や漁業へ影響がより少ない排砂方法を検討してほしい。具体的には、試験通砂を実施し、その検証結果を踏まえ、通砂基準の引き下げによる複数回排砂の検討をお願いしたい。</p>	<p>② 試験通砂については、通砂基準を引き下げて通砂を実施することにより、翌年の目標排砂量を低減させ、下流河川及び海域への環境負荷を軽減出来ないものかを検討するために、平成18年度から連携排砂計画に組み入れた。</p> <p>平成22年1月20日に開催された第32回黒部川ダム排砂評価委員会においても、今後の留意点として、「自然環境の現状を踏まえ、排砂・通砂の実施方法について引き続き検討を進めること」との意見が出されたことから、来年度以降は、試験通砂及び短時間集中豪雨を含めた通砂方法について引き続き検討を進めるとともに、その効果について検証したいと考えており、その結果を見ながら、ダムの機能維持や排砂による下流河川及び海域の環境への影響の最小化を視野に入れた連携排砂及び連携通砂の方法について、検討して参りたい。</p>

【平成21年度連携排砂及び連携通砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	③ 猫又付近の土砂堆積対策については、土砂搬出の具体的方策を検討して欲しい。	<p>③ 出し平ダム貯水池上流の猫又地点にある発電所放水口が出洪水により、土砂で埋まるため、発電機能の維持のため機械掘削を行っている。</p> <p>土砂掘削時においては、土砂を取り除く前に、当該エリアへの流水を遮断するための仮締切りが必要である。従来はこれを周辺の掘削土石により行っていたが、平成19年度より、仮締切り工事において大きな濁りが予想される箇所については、土のうを使用することにより濁りの発生を抑制し、より環境への影響を小さくするよう努めているところである。</p> <p>今後とも、堆積土砂処理については、環境への影響を小さくするような方法を検討して参りたい。</p>

【平成 21 年度連携排砂及び連携通砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	<p>① 第 32 回評価委員会評価では「水生生物について」の項目の中で、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出、洪水時、連携排砂および連携通砂実施時において、アユなどの魚類の個体数に大きな変化はなかった。 ・ 連携排砂および連携通砂により、河道内に堆積した泥分の割合が、排砂後および通砂後の措置の試行により、減少していることを確認できた。 <p>となっているが、組合独自の調査では、事実、連携排砂後のアユの内臓には腐敗した珪藻にシルト分が多く混じっており、アユの成育や品質を著しく低下させていることや、定点水中調査の結果を見ると殆どの浮石に細砂が珪藻を覆いつくし、アユの生息環境の影響について危惧しているところである。</p> <p>そのため、「今後の留意点」にあるように、水生生物の過去の個体数や種数の推移について、科学的な分析を行い、解明に務めるとともに、魚族の生息環境改善に務められたい。</p>	<p>① 実施機関としては、黒部川の河川環境へ与える影響を軽減できるような排砂方法の検討に今後も務めるとともに、黒部川及び出し平・宇奈月両ダムにおける排砂前後の環境状況を把握すべく、定期的かつ排砂期間中の排砂環境影響調査を行っており、魚類採捕調査などにおいても、これまで専門家の指導ならびに内水面漁協の方々にご協力頂きながら、実施してきているところである。</p> <p>平成 21 年度においても、連携排砂に伴う環境調査計画に基づく排砂環境調査として、魚類採捕調査、土砂堆積調査、水生生物調査を実施しており、第 32 回黒部川ダム排砂評価委員会で評価を頂いているが、今後の留意点で、水生生物の過去の個体数や種数の推移について、科学的な分析を行い、解明に務めることとの指摘もあることから、魚類の生息環境への影響に対する分析や調査については、専門家の指導ならびに、内水面漁協の方々から引き続きご協力を頂きながら実施して参りたい。</p> <p>また、やすらぎ水路の整備や機能保持、瀬、淵の創出や河口部の処理などにも務めているところでもあり、今後も内水面漁協や関係機関からのご意見も踏まえ、黒部川の河川環境を保全創出するための対策を実施して参りたい。</p>

【平成 2 1 年度連携排砂及び連携通砂の実施結果について】

関 係 団 体 名	関 係 団 体 の 意 見	対 応 状 況
農業関係団体	<p>① 連携排砂の実施期間は6月から8月までとなっており、この期間は灌漑期（4月から9月）の中で、最も水の必要な期間であるため、取水停止時間の短縮に向けた、一層の努力をしてほしい。</p>	<p>① 排砂及び通砂は、一定規模以上の出・洪水発生時に貯水池内に堆積している土砂及び出・洪水に伴い流入する土砂を貯水池内に貯めないで排出・通過させるものであり、出・洪水の末期にあわせて実施している。</p> <p>今年度においても、昨年度と同様、自然流下時間を12時間以内として、出・洪水の流況に応じて適切な自然流下時間となるよう臨機に対応している。ちなみに今年度からは、出し平ダムの排砂及び通砂後の措置の試行等により連携排砂及び通砂の実施時間を昨年度と比較して大幅に短縮することで取水停止時間の短縮を図った。</p> <p>なお、今回の連携排砂及び通砂は、洪水調節も無く、標準的な運用であった。</p> <p>また、愛本合口堰堤では、出・洪水に伴って取水停止となっているが、排砂及び通砂作業による影響がすべてではないことをご理解頂きたい。</p> <p>今後も、取水停止時間の短縮については、引き続き努力して参りたい。</p>

【平成 2 1 年度連携排砂及び連携通砂の実施結果について】

関 係 団 体 名	関 係 団 体 の 意 見	対 応 状 況
農業関係団体	② 連携排砂・通砂については、下流域の天候等を十分に考慮し、その時の状況に合わせて、臨機に対応していただけるよう、関係箇所と協議してほしい。	② これまでも農業用水の取水停止時間を出来るだけ短くするために、平成17年度からは、黒部川沿岸土地改良区連合と調整し、特に長時間の断水が水稻の生育に影響を及ぼすと考えられる7月15日から31日の期間に排砂を実施する場合は、夜間においても河川の濁り状況で取水再開を判断できる様に基準を設け、取水停止時間の短縮を図ること等を実施している。

【平成 2 1 年度連携排砂及び連携通砂の実施結果について】

関 係 団 体 名	関 係 団 体 の 意 見	対 応 状 況
農業関係団体	<p>③ 農業関係者の中には、排砂・通砂に対する認識が少ない方々がいることから、排砂・通砂実施時の住民に対する周知を強化してほしい。</p>	<p>③ これまでも排砂期間前、連携排砂及び通砂実施中、黒部川ダム排砂評価委員会および黒部川土砂管理協議会開催時等機会あるごとに記者発表、事務所ホームページへの掲載等により広報に努めてきたところである。</p> <p>また、平成17年度からは、連携排砂及び通砂実施中に、みらーれテレビ行政チャンネル（入善町、朝日町）上にテロップで愛本合口堰堤の取水状況について広報しており、これまでも、よりわかりやすい表示内容の改善に努めてきたところである。加えて、広報車による地域広報も実施していただいている。</p> <p>さらに、平成20年度からは、市町広報誌への折り込みも実施している。</p> <p>今後とも、連携排砂及び通砂と取水停止期間の考え方等についてご理解いただけるよう関係機関等とも連携しながら、より効果的な広報の実施に努めて参りたい。</p>